

京都をつなぐ無形文化遺産

「京 の 地 蔵 盆」

～地域と世代をつなぐまちの伝統行事～

平成26年11月

京 都 市

1	選定にあたって	1
2	京の「地蔵盆」	3
3	「地蔵盆」はいま	9
(平成 25 年度京都市「地蔵盆」に関するアンケート調査結果概要)		

## 選定にあたって

毎年 8 月中旬から下旬にかけて行われる伝統的な民俗行事である「地蔵盆」。地蔵信仰という宗教的な性格を持ちながらも、町内安全や子どもの健全育成を願う町内の行事として、時代とともに変化しながら受け継がれ、地域コミュニティの活性化に重要な役割を果たしてきた「地蔵盆」は、京都をはじめ近畿地方で盛んに行われている。

火災や飢饉、疫病の流行等が頻繁に起こり、自らの生活を守るために地域の助け合いが極めて重要であった近世において、お地蔵さんのほこら 祠やその周辺に見られる「町内安全」の文字が物語るように、地域の住民に安心と連帯感を与えてくれる存在としてお地蔵さんはまつ 祀られてきた。

特に、江戸時代に入ると、人口が増加し、市街地の拡大とともに、町を単位とした住民自治が広がっていく中、お地蔵さんを祀る行事「まつり 地蔵祭」「え 地蔵会」(明治以降、盆行事の一つとして「地蔵盆」と呼ばれるようになった。)は、町内の主要行事の一つとなった。

しかし、明治初期におけるはいぶつきしゃく 廃仏毀釈の動きに伴い、路傍にあるお地蔵さんの撤去が進められた。市内でも多くのお地蔵さんが撤去されたが、明治の中期以降に土中などから掘り起こされ、「地蔵盆」は復活することとなった。また、昭和の高度経済成長期には、新たに建設された新興住宅地やマンションにおいて、地域の行事として「地蔵盆」が積極的に取り入れられ、住民同士のつながりを深める役割を担った。

以降、「地蔵盆」は、子どもたちにとって夏休みの最後を飾る行事となり、お地蔵さんを飾り付け、お供えをして祀り、その前で子どもたちが集まり遊ぶというスタイルが一般的となった。また、子どもだけでなく、大人も積極的に参加することで、幅広い世代の交流の場となり、さらに、「地蔵盆」の開催に向け、町内の住民が力を合わせ、話し合いながら準備することは、町内の連携や協力体制を強めることとなった。

このように、町内の住民同士が顔を合わせ、子どもを見守りながら、世代を越えて交流を図る機会となっている「地蔵盆」は、近年において、新しく住民となった方がその町内の住民の方々と交流できる貴重な場としても機能し、地域コミュニティの活性化、そして、安心安全のまちづくりに大いに役立っている。

しかしながら、子どもの減少や職住分離をはじめとする生活様式の変化などにより、行事自体が簡略化・衰退しているところも増えてきている。

こうした現状を踏まえ、世代を越えて京都のまちに脈々と受け継がれてきた民俗行事であり、町内の年中行事となっている「地蔵盆」の果たしてきた役割を再認識し、時代の変化に応じた工夫や新たな趣向を取り入れながら、未来に引き継がれるよう、「京の地蔵盆ー地域と世代をつなぐまちの伝統行事」を“京都をつなぐ無形文化遺産”に選定する。

## 京の「地蔵盆」 ～行事内容など～

「地蔵盆」で行われる行事内容は地域によって様々ですが、多くの町内で行われている（行われていた）行事内容を踏まえ、一般的な「地蔵盆」の内容についてまとめてみました。

### 京の夏の風物詩「地蔵盆」

平成25年度に京都市が実施した「地蔵盆」に関するアンケート調査（結果概要は9ページ以降参照）によると、同年に「地蔵盆」（「大日盆」などの盆行事も含む。）を実施した町内は回答全体の約8割となっている。8月後半、まちのあちらこちらで見かける「地蔵盆」は京の夏の風物詩となっている。

#### <開催日>

「地蔵盆」は、じぞうぼさつ地蔵菩薩の縁日（旧暦7月24日、もしくは、新暦8月24日）の前日を中心に行われ、最近では、参加する人たちの都合に合わせて、その前後の土日に行うところが多い。また、てんどうだいにもちによらい天道大日如来を祀っている町内では、大日如来の縁日（旧暦7月28日、もしくは、新暦8月28日）を中心に「大日盆」を行うところもあるが、それらも「地蔵盆」として行うところが多い。

様々な行事を盛り込み、2日間やそれ以上の日程で行われる町内もあるが、子どもが少なくなったことや大人の都合がつきにくくなったことから、最近では一日で終わるところが多い。

#### <開催場所>

お地蔵さんを祀った祠の前が比較的多い。その他、個人宅や駐車場などの空き地、道路上、集会所、公園などで実施されている。

#### <運営主体>

町内会或いは町内の子供会などが運営主体となって、町内単位に行われることがほとんどである。運営の担い手は大人が中心であるが、鉦や太鼓などで行事の開始を知らせる役割など、子どもも「地蔵盆」の運営に参画することで、世代間の交流が図られている。

また、最近では、「地蔵盆」を開催できない地域の住民のために、学区の自治会館などで「地蔵盆」を開催し、参加してもらうといった取組もある。

### 町内で協力して行う「地蔵盆」

#### <お地蔵さんのお化粧など>

「地蔵盆」が近づくと、町内の人たちは、お地蔵さんを祠から出して、新たに彩色する「お化粧」を行い、新しい前掛けを着せる。

お地蔵さんが祀られていない町内は、寺院から借りるか、或いは、仏画を使用するかなどしていることが多い。



#### <供物などの飾り付け>

町内の人たちからお供えを集め、お地蔵さんを祀る祭壇に花や供物、お札じぞうばた (地蔵幡) ちょうちんなどを飾り付ける。火を灯した提灯に似ているところからホオズキをお飾りの花として使うことが多い。

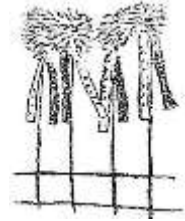
供物としては、紅白の餅らくがんや落雁はくせんこう (白雪糕) といったお菓子、果物、精進物のお膳などが供えられる。



## <会場まわり>

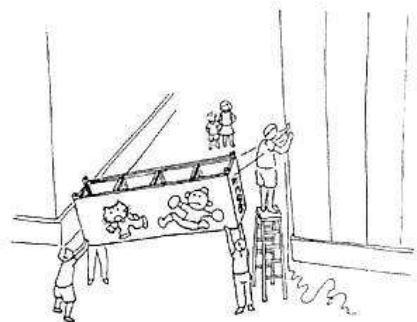
会場まわりはとうろう 提籠やあんどん 行燈、提灯などで飾られる。

子どもが生まれると、健やかな成長を願ってその子の名前を書いた提灯が作られ、その子が「地蔵盆」に参加している間、毎年飾られる。また、青竹ののぼりを立てるところもある。



提籠や行燈にローソクを立て、夜の明かりを楽しむこともある。また、「地蔵盆」の会場の入口に吊るす大きな行燈もある。

行燈の絵を子どもたちが描くなど、大人だけでなく、子どもも「地蔵盆」の準備に参加することにより、世代間の交流が図られている。



なお、最近では見られなくなったが、陶磁器や糸などの日用品を使って人形などをつくり、情景をしつらえる「作り物」もある。



## 世代を越えて交流を図る「地蔵盆」

### ＜数珠まわしなどの伝統行事＞

「地蔵盆」は、僧侶による読経や法話が始まる場所が多い。町内によっては、子どもたちが直径2～3メートルの大きな数珠を囲んで座り、大人もその輪に加わりながら僧侶の読経に合わせて順々に回す「数珠まわし」（百万遍念仏の一種で、「数珠繰り」ともいう。）が行われる。



こうした伝統的な行事だけでなく、お菓子の配布や手料理の振舞い、ゲーム大会、スイカ割りなど、子どもを主体とした様々な行事が行われる。



### ＜お菓子配り＞

子どもたちが喜ぶお菓子配りは、ほとんどの「地蔵盆」で行われている。そこに集まり、学年の違いを越えて隣近所の友達と一緒に遊んだ子どもの頃の経験は、「地蔵盆」の楽しい記憶として、大人になっても残るものである。

### ＜手料理の振舞い＞

お菓子配りのほか、昼食或いは夕食として町内の世話役による手料理が振る舞われることもある。また、屋台が設けられるところもある。

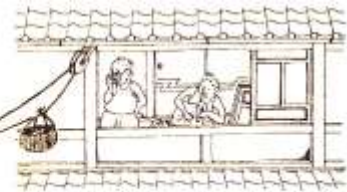
### <遊びのイベント>

ゲーム大会など子ども向けの行事がプログラムに並ぶ。夜になると花火大会や盆踊り、映画会などが行われるところもある。また、大人だけの交流の場がもたれるところもあり、町内における貴重なコミュニケーションの機会ともなっている。

### <福引>

子どもにとって最大の楽しみである福引は、主にプログラムの終盤に行われる。

「<sup>ふご</sup>畚おろし」といった昔ながらの形式で行うところもある。「畚」とはかごのことで、くじで当たった景品をかごに入れて、家の2階などの高所から吊り降ろすものだが、こういった光景を見ることは最近では少なくなった。



### <供物のお下がり>

お菓子などの供物は、お下がりとして子どもたちに配布される。夏の終わりに体力を消耗した子どもたちの栄養を補給しようと落雁を配ったとも言われている。



### 町内を見守るお地蔵さん

「地蔵盆」が終わると、祠から移動させたお地蔵さんは元の場所に戻る。

町内の住民は、日頃から感謝の気持ちを込め、お地蔵さんの前で手を合わせ、祠を綺麗に掃除し、新しい花を活ける。大都市でありながら、まちの辻々で見かけるこうした光景は京都ならではのものである。

地域コミュニティの活性化に「地蔵盆」が重要な役割を果たしていることから、最近では、地域住民が主体となって「地蔵盆」についての調査・研究※が進められています。

※ ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会（山科区・平成 24・25 年度）、

上京区成逸住民福祉協議会（上京区成逸学区・平成 25 年度） など



## 「地蔵盆」はいま

(平成 25 年度京都市「地蔵盆」に関するアンケート調査結果概要)

“京都をつなぐ無形文化遺産”「地蔵盆」の選定に当たり、京都市内における実施状況を把握するため実施した「地蔵盆」に関するアンケート調査の概要を掲載する。

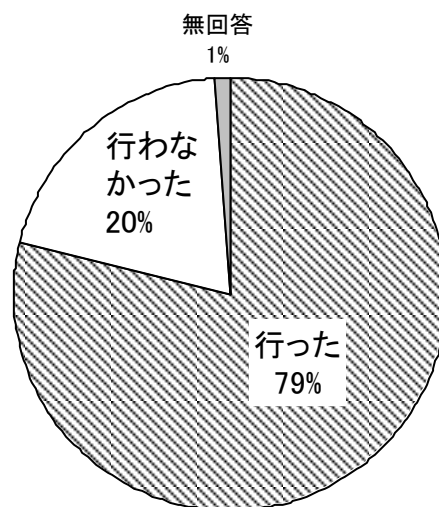
### <調査の概要>

- ・調査対象 自治会長・町内会長など
- ・調査方法 書面によるアンケート調査（郵送回収）
- ・調査期間 平成 25 年 9 月上旬～12 月末
- ・調査対象数（配布数） 6,627 件
- ・回収状況 有効回収数 3,684（有効回収率 56%）

### <調査結果の概要>

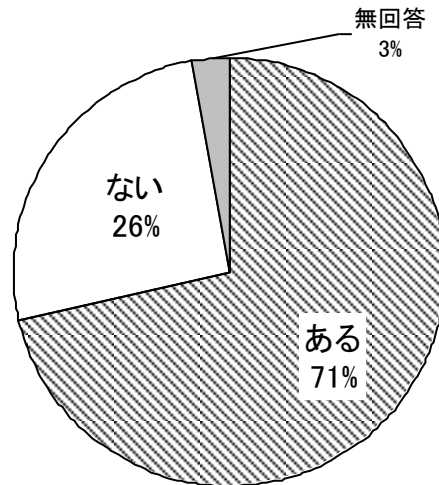
#### 「地蔵盆」の開催状況

平成 25 年度に「地蔵盆」を行った自治会・町内会は回答全体の 79%となっている。



### お地蔵さんの有無

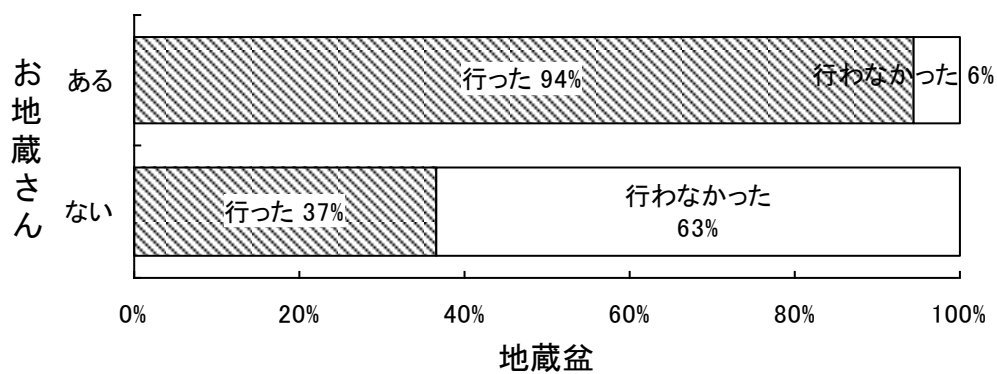
お地蔵さんを祀っている自治会・町内会は、回答全体の71%となっている。



### お地蔵さん有無別の「地蔵盆」開催状況

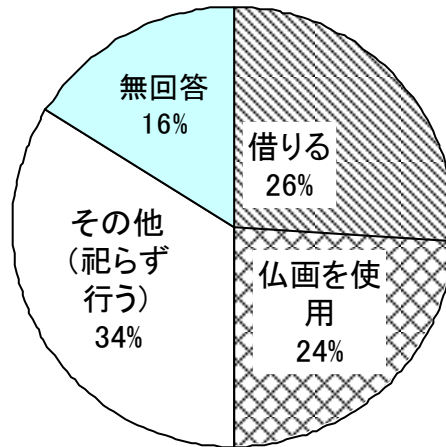
お地蔵さんを祀っている自治会・町内会では、ほとんどが地蔵盆を行っている(94%)。

お地蔵さんを祀っていない自治会・町内会で「地蔵盆」を行ったところは37%となっている。



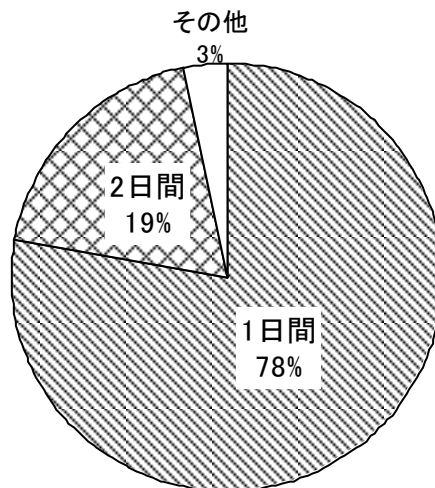
### お地蔵さんを祀っていない場合

お地蔵さんを祀っていないなくても「地蔵盆」を行ったところでは、「お地蔵さんを借りてくる」が26%、「仏画を使用する」が24%、「その他（祀らず行う）」が34%となっている。



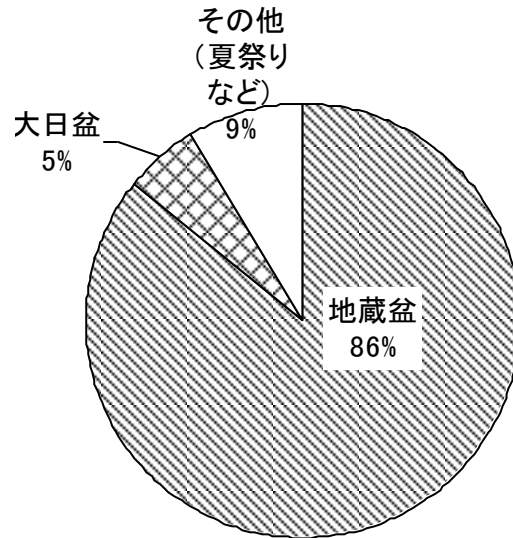
### 開催日数

「1日間」が78%を占め、「2日間」は19%となっている。



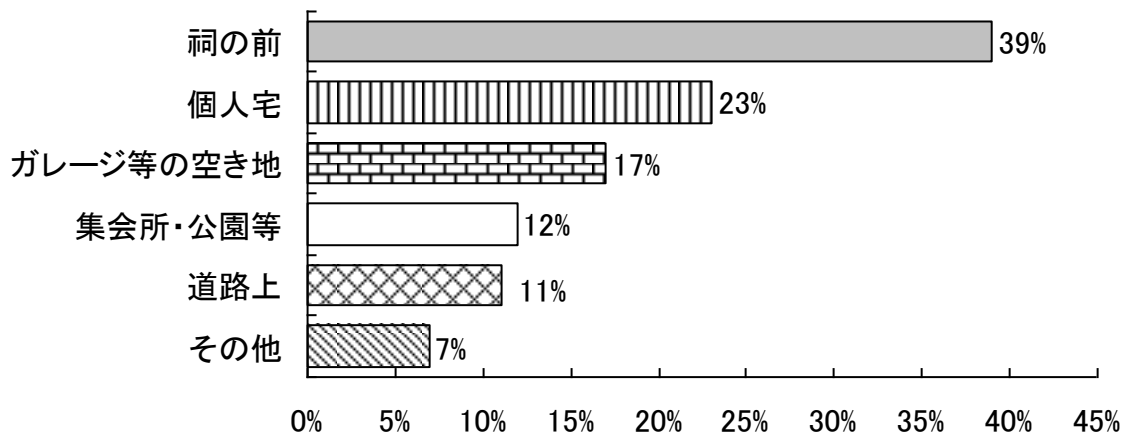
### 行事の名称

行事の名称は、ほとんどが「地藏盆」であったが、「大日盆」も5%ある。



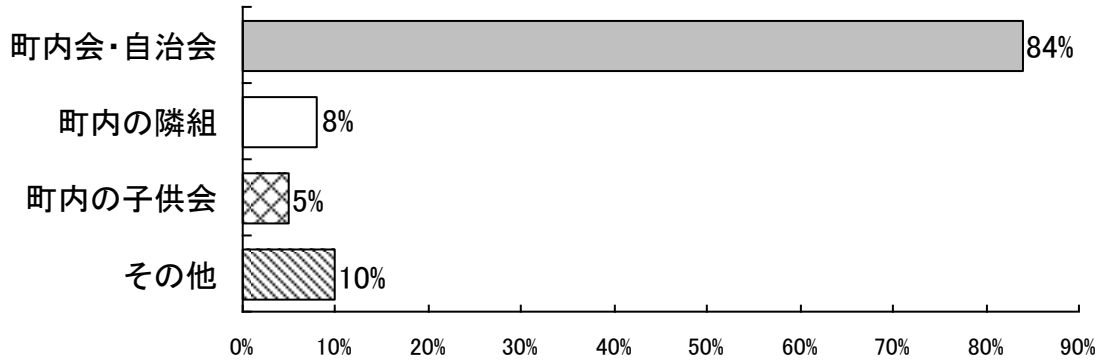
### 「地藏盆」の開催場所

「祠の前」が最も多く(39%),「個人宅」(23%),「ガレージ等の空き地」(17%),「集会所・公園等」(12%),「道路上」(11%)となっている(複数回答)。



### 「地蔵盆」の運営主体

「自治会・町内会」が84%を占める（複数回答）。



### 行事プログラム

お地蔵さんの飾り付けやお供えのほか、「地蔵盆」のプログラムで最も多かったのは「お菓子配り」(91%)で、続いて、「福引」(68%)となっている（複数回答）。

